第3回 富士市立中学校 部活動地域移行協議会

日時 令和6年11月13日(水) 午前10時~正午

場所 富士市庁舎 9階 第2委員会室

出席者

[委員]

服部 英之 橋本 仁 山野 政宏 辻村 典枝 佐野 美幸

村田 真一 神尾 充浩 望月 香織 原田 和久

[事務局]

教育次長、教育総務課長、学校教育課長、教育指導室長、社会教育課長、
文化スポーツ課長

部活動地域移行協議会ワーキング委員

傍聴者数 4名(うち報道2)

会議の概要

1 報告事項

(1) 実証的モデル事業の報告

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

山野委員	アンケートの対象は生徒か、保護者か、指導者か。
事務局	参加した子どもに保護者と一緒に回答してくださいとお願いしている。基本的にはその場で回答ではなく、QRコードを持ち帰っていただき、その後回答をしていただいている。
橋本委員	アンケート回答数が、野球の場合だと回答数92となっている。各回100名ずつ参加していると思うが、100名同じ方が参加しているのか。200名の中の、回答数が92だと、参加した方の半分もアンケートの結果が反映されてないということになる。そこは把握されているのか。
事務局	野球のモデル事業は9月、10月に行ったが、アンケートは累積で増えている。トータルで毎回100人ぐらいの申込みがあった。こちらから強制的に必ず答えてくださいということとはできないため、全員の方が回答してくださっているわ

	けではないが、半分以上の方が、答えてくださっている。吹奏楽については37名中14名の回答数であった。大体半分ぐらいの方にお答えいただいた。
村田会長	いわゆる延べ人数であると思う。2回とも参加されている方は、2回回答していることがあるのか。
事務局	2回回答されている方もいるかもしれない。確認するようにする。
村田会長	回で内容等が違うから、2回やっても構わないが、同一人物に同じアンケートをするのはいかがかと思う部分はある。
事務局	承知した。
山野委員	アンケートの回答者は保護者と子どもたち、いわゆる参加者であるということだが、指導者、それから実施団体の方たちの意見はどう把握をされているのか。
事務局	文化連盟にお願いをさせていただいた文化芸術活動、吹奏楽については、その時にアンケートをさせていただき、御意見をいただいている。また、各スポーツ団体の方の御意見については、何回か回数があるので、今後まとめて御意見をいただく予定でいる。野球については、野球の指導者からはいただいたが、野球連盟の方にはまだという状況である。
山野委員	それについては終了した時点で、総括して来年度以降どうなるかということまでまとめていただくということによろしいか。
事務局	そのとおりである。
橋本委員	保護者的な意見であるが、様々な実証的モデル事業を実施していただき、部活動つうしん等で周知をされていると思うが、各学校や地域で周知の差等、ばらつきはなかったか。 もう1点は、先ほど野球の報告の中に、けがではないがぶつかってしまったという報告があった。交通手段のところで自転車という話もあったが、事故等はなかったのかお聞きしたい。
事務局	まず1点目の周知の方法であるが、各学校に電子配信の依頼をして周知をした。時間的な差はほとんどないと考えている。さらに剣道や野球は、顧問の先生から周知をいただき、「こんな取組をやっているから、参加してみたらどうか。」と投げかけをしてくださったと伺っている。 自転車の事故等については、前回の協議会で議論をしていただいた後、周知までは時間が短かったため、現在までのモデル事業については自転車での参加の実施はしていない。
佐野委員	参加できていない方はいるのか。例えば、告知して来られなかった生徒はい

	<p>るのか。日付が合わない、場所が遠いなど、何か理由があって行けなかった方に意見を聞きたいと思う。</p>
事務局	<p>体調不良等で参加できないという方は文化、スポーツ共に何人かいて、連絡をいただいた。野球では、大会が重なってしまいそちらの大会の方に出るため参加できないという方もいらっしやった。ただ、距離的に遠いから今日の参加はできないという報告は今のところ受けていない。会場も事前に告知してあるので、この日は交通手段がないから行けないということはあったかもしれない。</p>

2 協議事項

(1) 富士市地域クラブ活動に関する基本方針案（グラウンドデザイン）について

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

村田会長	<p>御質問や御意見をいただきたいと思うが、いかがか。</p> <p>1 ページの項目、目次について、このような項目立てで良いのかということ、6 ページまでは中身が続くので、その点についても御指摘・御感想をいただければと思う。</p>
橋本委員	<p>3 ページのグラフについて、バドミントンが 19% と割と多いと感じた。子どものニーズがあり、やりたいという方がいるが、実際学校部活動にはない。これから先、部活動にするのか、それとも地域クラブにするのか。地域クラブとして公民館等でやっている方たちは多くいると思うが、これから先、どのようにしていきたいと考えているのかが 1 つ聞きたい点である。</p> <p>もう 1 つ、その他が 211 人とあるが、その他にはどんな活動があるのか教えていただきたい。今の子どもたちは e スポーツ等に興味があるのか。</p>
事務局	<p>今回のアンケートで、バドミントンのニーズが一番多くあるということ把握している。可能であれば、来年度モデル事業等で何かしらの取組を進め、地域クラブのメニューとして展開できるのが望ましいと思っている。ただ具体的にどのようにすればできるかというのは、今後いろんな団体や関係者と検討を進めていく必要がある。</p> <p>その他の中には、美術、自転車競技、軽音楽、空手、弓道、スケートボード、ものづくり等があった。</p>
橋本委員	<p>子どもたちにとって、美術、自転車、軽音楽等はアニメなどを通して憧れ</p>

	<p>があり、取り組んでみたいが学校部活動にはないという現状があると思う。</p> <p>e スポーツやドローン等のニーズが多いと思っていたが、イメージと少し違った。今、既設の団体が少ないと思うので、これから先どうするのか疑問に思っていた。</p>
事務局	e スポーツは3人程希望があった。
原田委員	<p>橋本委員からバドミントンについて、学校の部活動として新たに立ち上げられるのかどうかという話があった。今、少子化に伴って教員数も少なくなり、部活を新しく立ち上げるということは難しいというのが学校現場の状況である。</p> <p>現状では、教員数が減るがために何年かかけて部活を休部にしたり廃部にしたりしていくという学校が増えている。減らしていくという方向で学校の中では進んでいる。本当に教員の数が限られているので、やりたくてもできないという現状がある。</p> <p>現在、富士市でバドミントンをやっている子どもたちはクラブチームに所属している。中体連大会で今年も種目としてあったので、そこにはクラブチームから参加をしている。</p>
神尾委員	<p>バドミントン部は学校に存在していない。興味のある子たちはクラブに行っている。クラブで所属して活動しているお子さんの現状は、シングルスとダブルスでそれぞれ10名にも満たないくらいの子どもたちが参加している。希望としてはやりたいが、やる場がないということがあるのかもしれない。</p> <p>クラブの数はどのくらいあるか分からないが、そんなに多くはないと思う。ごく限られた子どもたちが、バドミントンに親しんでいる状況だ。しかしニーズとしてはこれだけあるということであるから、組織を充実していく必要があるとは思う。</p>
村田会長	方向性としては審議となるが、バドミントンが多いから、学校内にバドミントン部を作ろうという話ではないということによいか。
橋本委員	一番初めのイメージで言うと、エリアごとという話があった。実証的モデル事業で研究という話になるかもしれない。そういうことも考えているのかと疑問に思ったので質問させていただいた。
佐野委員	バドミントンの話だが、単純にイメージとして、自分だと例えば大谷選手が野球をやっているから野球とか、最近話題に上がっているバスケットボールとかサッカーとかが人気かと思ったら、バドミントンが多いという結果となり、なぜかなと思った。例えばけがが少ないとか、室内でやるからとか、

	子どもは何を考えているのか、理由を知りたいと思った。
事務局	なぜかは分からないが、何となく楽しそうだというイメージがあるのかと思う。小さな頃から親しみやすいとか、保護者の方と一緒にやったことがあるとか、色々あると思うが、理由は分からない。
橋本委員	オリンピックで目に付いたということもあると思うので、その時だけであることもある。だんだん淘汰されていくとネットには書いてあった。バドミントン部は高校にはある。富士宮市も盛んである。
山野委員	<p>富士市の場合バレー、バスケット、バドミンソンの3つは競技人口が多い。まだ私達も分析をしているわけではないが、正直に言って組織体として、この現状の移行というところまでになると、受け皿的には難しいということはある。現状としてのバドミントン人口、需要、ニーズは確かに多いと思う。小学生、中学生、高校、一般とあり、富士市は一般の人口もかなり多いが、このアンケート通り、中学生の需要は多いことは間違いない。</p> <p>バドミントン協会もその辺りをどう分析して、これからどう受け皿を作っていくのかというのはこれからの検討課題であると、この間も会合で話をさせていただいたところだ。</p>
村田会長	<p>今日は骨格を皆さんに見ていただき、まだ継続審議になると思うが、2ページ目の現状と課題は最もだと思う。しかし、この図を見たときに、学校で行っている部活動の中に自分の一番やりたい部活動があるというのが70%とある。論の持って行き方として少し無理があると感じた。今は70%あるが、今後こういった情勢があるから、間違いなく減っていく可能性があるとか、データはないかもしれないが、以前は普通に9割だったがこれでも下がって、これから先は間違いなく人口動態や職場環境によって下がっていくことが大いに予想されるなどを何か付け足した方がいいと思った。</p> <p>市民の方が見たときに、今のままでいいというふうになるかもしれないと思った。</p> <p>前回審議をした基本理念についてであるが、6ページの③の上から3行目に、「一部の人が担うのではなく、多くの方で分かち合い、最小限の負担とすることが望ましい」とあるが、「最小限の負担とすることが」は入れなくてもいいのではないかと思った。一部の人が担うから非常に負担が重いので、これをみんなで分かち合うことは必然的に負担が減っていくと思った。</p> <p>もちろん子どもたちの活動に対して、例えば保護者であれば、もっとコミットしたい、いわゆる加担したいという方もいると思う。教員の負担という</p>

	<p>のは何となく社会問題にもなっているのでもいいとは思いますが、負担の解消、最後にあるこの「十分配慮しつつ」というのは、僕も大事だと思うが、保護者のところで、できるだけ大人はやらない方が楽であるみたいな印象にはしたくないと思っている。これは大事な活動ということで我々は取り組んでいる。過剰な負担は厳禁だが、それに関わりたい方を別に妨げるものではないので、そのような書きぶりが目についたので、コメントさせていただいた。</p>
神尾委員	<p>実証的モデル事業のことで、事務局にお伺いしたい。</p> <p>野球と剣道が熱心にこれまでも、そしてこれからも計画をされているが、私は剣道をずっとやってきたので、剣道連盟の先生方も親しくさせていただいている。以前からも初心者向けの講習会を年間を通して計画的にされていた。その時には剣道連盟の先生方が複数名来られて、我々は素人の顧問が多いのでそれを見て学ぶような機会があった。実際の指導は剣道連盟の一般の方々常在にリードし、リーダーシップを発揮してやっておられた。きっと今年度もそういう形をとられていると思う。</p> <p>野球の練習会において、野球連盟の方々はどういった形で参加されているのかをお聞きしたい。野球連盟の方が来て、リーダーシップを発揮されているのか、それとも顧問が中心となってやっているのかということをお聞かせ願いたい。</p>
事務局	<p>野球連盟の今回のモデル事業については、指導者は基本的に顧問の先生方が、野球連盟の役員・指導者として活動をしてくださっている。逆に顧問ではない野球連盟の方が来たということは、基本的にはなかった。兼職兼業届を出していただいて、活動をしていくという形になっていた。</p> <p>顧問以外であると、部活動指導員の方が指導に当たってくださったというところもあった。基本的には、ほぼ顧問が身分を変えてという形で、参加してくださった。ただ野球連盟に聞くと、やはりそれでは教員の負担解消ということにならないから、指導者の発掘が必要になるということは、今回やってみて課題として上がっているということは伺っている。</p>
神尾委員	<p>今は過渡期であるからすごく大変だろうと思う。野球の実証的モデル事業の話を知ると、この時期は様々な大会が野球に限らず、目白押しである。その隙間を縫って、この実証的モデル事業の活動をどこへ入れ込もうかというところでもまず悩まれている。そういう中で、連盟に所属している学校の顧問が中心となって、活動もリーダーシップを発揮しているとなると、学校からすると、この過渡期に、連盟に協力的な顧問の負担はものすごく大きいと思</p>

	う。ほとんど休みなくやっているのではないかと心配もある。それでも自分は指導をしたいという顧問が多いただろうとは思いますが、これから地域に移行していくという中で、地域の教員以外の野球の指導者も増えていくといいと思った。
村田会長	この話はこの後の組織体制や指導者とも繋がる大事な論点だと思う。
山野委員	先ほどの村田会長の話に関連するが、2ページの現状のこのグラフの分析について、一番取り組みたい活動が70%、この文章にもあるが、一番取り組みたい部活動はないという生徒が多くいる現状にある、これが17%。この数字から言うと、70%はかなり満たされていると思った。取り組みたい部活動がない生徒が17%というのは、割と少ないと思う。多くいるようには、見えない。この辺の文章表現と、このグラフのパーセンテージについて、若干違和感があると感じた。この表現方法や分析方法をもう少し変えたほうがいいと思う。
事務局	今御指摘いただいたように、7割の方たちが取り組みたい部活動があるとなると、今後の論調等もあるので、ここについては少し検討させてほしい。
村田会長	その後の議論でまた各論もあるので、この(1)富士市地域クラブ活動に関する基本方針、いわゆるグランドデザイン案については、この方向で進めていくということによろしいか。いつも承認か不承認かということでお聞きしていたが、まだこれからも中身が続くということをお聞きしているので、まずこの方向で進めていくという程度で、承認というか、確認をさせていただく。引き続きよろしくお願ひしたい。

(2) 組織体制について

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

橋本委員	先進的事例等で説明していただいたが、中には部活動を廃止する自治体もあると聞く。長岡市、沼津市、掛川市、磐田市はどのような形で今動いているのか説明していただきたい。
事務局	一番典型例なのは掛川市である。掛川市は令和8年から、部活動を完全に廃止して、平日も休日も含めて移行する方針である。長岡市、沼津市、磐田市はまずは我々と同じように休日の部活動を地域に移行するという想定と認識している。
橋本委員	昨年懇話会の時に説明を受けたが、知らない方もいると思ったので質問させていただいた。

<p>村田会長</p>	<p>国が出している文書の中に運営団体や実施主体という用語があるが、先ほど事務局から説明があったように、この命名については変えても構わないということである。例えば長岡市であれば上から管理主体、運営主体、その下に支援団体、活動団体、となっている。今日は特に4ページ、富士市においてどういった組織体制がいいかという意見の聴取、審議になる。</p> <p>資料の類型2では、企画主体、運営団体、実施主体となっている。後ろの2文字が主体、団体、主体となっているので、どちらかにそろえられないかなと思う。直感的には、長岡市に近いのだと思う。</p> <p>類型1は層が2つある。階層が平準的というかあまり長くなく、運営団体と現場となっている。類型2の方はさらにそれが2つあって現場となっている。それらについて、メリット・デメリット等、事務局として何か想定していること等はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>市や市教育委員会が企画主体や運営団体のいずれかになると思う。例えば、スポーツ協会や文化連盟が仮にこういった活動ができるかであるとか、ここから左上等に分かれて支援団体となり運営団体と実施主体を支援するであるとか、色々なことが考えられると思う。それぞれのメリット・デメリットというところでは今の段階では申し上げるのは難しい。様々な組み合わせが考えられる。できる、できないということもあるかもしれないが、どうしても市教育委員会や市のみでは活動が難しいということがある。できることであれば、スポーツ協会、文化連盟に限らず、多様な主体が一緒になって連携して進めていけたらと考えている。</p>
<p>山野委員</p>	<p>今の話はとても大切なところだと思っている。ただ、絵に書いてある部分だけではなかなか難しい。その辺についてはなるべく、具体的なイメージをしながら、関係団体と連携を取りこの体制を作っていく方がいいと思う。</p>
<p>望月委員</p>	<p>今、協議会にスポーツ協会と文化連盟に御参加いただいているが、例えば今まで出てきていた野球連盟、剣道連盟との上下関係があるのかなのか、或いはそういう団体がみんな入ったものが協会なのか教えていただきたい。</p>
<p>辻村委員</p>	<p>文化連盟とスポーツ協会は別である。資料の表を見ると、文化連盟がどの位置になるのかと疑問に思った。今、協力する体制にいる。どこかに書いていただけると文化連盟としても協力できると思う。</p>
<p>望月委員</p>	<p>前回のモデル事業であったマジックや琴、日本舞踊等の文化的な実証的モデル事業をやられるに当たり、その方たちは皆それぞれの団体として文化連</p>

	盟に所属されているというイメージでよろしいか。
辻村委員	そのとおりである。
山野委員	<p>スポーツ協会も同じである。富士市に43団体あり、当然、中体連も入っている。バドミントン、バレーボール、剣道、柔道、野球等は加盟団体としてあり、それが1つ屋根の中にあるイメージである。それ全体がスポーツ協会という形になっている。</p> <p>ただ、富士市の場合は、このイメージする長岡市と違う。長岡市は公益財団法人であるが、富士市はあくまで任意団体である。法人格はなく、組織の力は大きく違う。長岡市のイメージは非常にイメージしやすいと思っているが、これをそのまま富士市に当てはめることは、ほぼ無理だと思う。そこは意見交換をしながら、どういうふう調整していくかということこれから議論していく必要があると思う。</p>
村田会長	<p>確認であるが、富士市スポーツ協会の中に各種目、例えばバスケットやバレー、野球や剣道等が参加しているということによいか。その中にバスケット協会やハンドボール協会、野球連盟等がある。協会や連盟という言い方はいろいろあるが、その下に現場がある、それぞれ任意の団体、それぞれのチームがあるという組織構成、連合になっていると思う。</p> <p>文化連盟はその中に書道連盟や吹奏楽連盟等があるのか。</p>
事務局	吹奏楽はない。音楽という部類である。書道、写真、マジック等もある。
村田会長	またその下に、それぞれの公民館で活動しているような現場があるということか。
辻村委員	そうである。そのグループが活動する場所は、それぞれが選んでいる。
村田会長	今のお話では運営団体、その現場をコントロールするところが、例えばスポーツで言えばスポーツ協会というのも有力だが、実はそのスポーツ協会をもっと細かく見ていくと各種目の協会もあり、そことのバランス、兼ね合いというのは議論になるのかもしれない。
橋本委員	先ほど山野委員がおっしゃったが、スポーツ協会としては長岡市の例は難しいというお話があった。運営主体のところ、スポーツ協会が担うのは難しいということか。
山野委員	具体的に私も長岡市のイメージしかなく、中がどうなっているか分からない。スポーツ協会がイニシアチブを取るのには、組織的に難しいと思う。現状、長岡市ではスポーツ協会が運営主体として活動していると資料から読み取れ

	<p>た。現状の富士市としては、富士市のスポーツ協会をここに当てはめるとすると難があると意見として述べさせていただいた。</p>
橋本委員	<p>そうであるとする、スポーツ協会や文化連盟は支援団体となると思う。運営団体の方をどういうふうにするかということを決めないと何も進まないおそれがあると思う。</p> <p>例えばスポーツ協会に、例えば新しいスポーツ、例えば今、富士市だとアルティメットとかが盛んである。アルティメットの団体もあると思うが、スポーツは結構、流行とかがある。団体は全部入るという認識でいいか。新しくスポーツ協会に入る、文化連盟に入るためには、システムがしっかりとできているのか。</p>
山野委員	<p>加入条件が整っていれば、スポーツ協会も文化連盟も入ることができると思う。</p>
橋本委員	<p>子どもたちがやりたいというニーズに沿って動いていただける、支援していただける体制があるといいと思った。</p>
山野委員	<p>富士市の場合は整っていると思う。e スポーツがスポーツかどうかという議論は出てくるかもしれないが、一般的にスポーツは可能であると思う。文化についてはどうか。</p>
辻村委員	<p>山野委員がおっしゃったように、ある一定の条件が揃っていれば新しく作ることもできる。</p>
山野委員	<p>スポーツ協会の場合には、同好会だとなかなか難しい部分もあるが、組織がきちんとできているか、会計がいるかなど、一定の条件を満たしていることを確認ができれば、加入は十分可能である。</p> <p>ただ1つ、私が心配しているのは、今、野球、剣道、ハンドボールが実証的モデル事業としてモデルでやっているが、現実的にその他の競技スポーツや各文化芸術活動も含め、その団体がどこまで受け入れることが可能かどうかということである。現時点ではどうか、また将来的に可能になるにはどういふところをクリアしていかなければならないのかのところも、併せて協議をしていく必要があると思う。</p> <p>ただ、組織体制だけ作って、絵がきちんとできても中身ができてないと全然進まない部分もある。事務局が今御苦労されていると思うが、私がそれぞれの競技団体の方とお話をする中では、正直言ってなかなか難しいと感じている。年に1回、2回のモデル事業としてやる分については全く問題ないかと思うが、部活動の延長線上で土曜日・日曜日という形になると、組織体制</p>

	<p>があまりできていない。クラブチームができてない。例えば、テニスもそうであるが難しい部分もあるので、それと合わせた形でこの組織体制を作っていかないと難しいと思う。</p> <p>これは、これからの協議になると思うが、今後も協議会等の場で議題として出していただき、考えていく必要があるかなと思う。要望として出させていいただきたい。</p>
望月委員	<p>今、市教育委員会が運営主体となっていく可能性があるだろうというお話があった。現状、今は教育総務課の方で引き受けてくださっているが、例えば社会教育課や文化スポーツ課、外向けのスポーツと市民向けのスポーツで担当課が変わっていたかと思うが、そういった課との連携も考えていかないといけないと思っているがいかがか。</p>
村田会長	<p>行政の中でもしっかり横串でということである。</p>
事務局	<p>現在庁内では、今お話にあった教育総務課、学校教育課、社会教育課、文化スポーツ課の4課でワーキンググループを作り、連携して対応している。協議会をする前にも、あらかじめ話合い、連携をしている。この市・市教委というところは、この4課が中心となって連携していくような形を想定している。</p> <p>先ほどの説明にもあった磐田市は放課後の活動、部活動の移行に特化した課を作っていると伺っている。他にも袋井市も同じようなことやっている。そういうことも今後あるかもしれないが、現在は4課で連携してやっている。</p>
村田会長	<p>今日、もちろん決するわけではないが、先ほど山野委員や辻村委員がおっしゃったスポーツ協会や文化連盟で担うのは難しいというのは、人材の問題か。</p>
山野委員	<p>富士市は、人で頼むのか組織で頼むのかというところがまだこの場でははっきりされてないように感じている。会長がおっしゃるように、確かに人もそうだが、組織体制として、例えばバレーボールやバスケットボール等の、その組織がどういうふうに中学生を受け入れることができるのか、地域のクラブチームが受けるのか、それとも、その中の人を派遣されてそこへと行くのかどうなのかというところはまだはっきりされてない。そこを少し整理していく必要があると思う。</p> <p>指導者が学校に入るのか。今は、子どもたちの中から外に出て、地域の中で受け入れるという話になっている。私はそういう認識をしている。吉原地区、富士地区にはそれぞれこのようなクラブチームがあるという形であれば、</p>

	<p>それぞれのところで受けることができると思う。しかし、富士市の中で受け入れてくれるチームが1・2ヶ所だとなかなか難しい部分があるかと思う。そういう組織体制の問題、人よりもまず組織、受け入れ体制がちゃんと整備されていない。</p> <p>もし必要ならば、各団体と連携をしながら、クラブ活動を移行するために、あえてそのようなクラブチームを作っていただくような逆提案をすれば、可能になるかもしれないと私は思っている。現状でなければ作ればいいという話である。ただそれについては、人の問題、経費の問題、場所の問題等色々あるため、そこをどうクリアしていくかはこれからの課題だと思う。どういふふうにしたらこの問題が解決していくのかというところを考えていく必要性がある。</p>
<p>村田会長</p>	<p>よく中間支援組織とか中間組織と言われるが、行政が市民にサービスするためという、例えばシズカツもそうであると思うが、民間、いわゆる市民が主導してやっていく。民間の中には、例えば株式会社エスパルスだとか、フィットネスクラブのような企業もあれば、いわゆる民間の中立的な協会や連盟もある。自治体によっては民間企業、ビジネスの企業が一括して担っているという例もある。</p> <p>今、この議論の中で、山野委員や辻村委員がいらっしゃるのでスポーツ協会や文化連盟に運営主体となり得る可能性があるか何うのはあつてしかりだが、例えば先ほど望月委員がおっしゃったように、他の課には附属している例えば、学校運営協議会、コミュニティスクールがある。あるいは各地区の集合体があると思う。多くの学校運営協議会を束ねた組織が多分あると思う。そういった中間組織として、スポーツ協会、文化連盟だけではなく他にも広げて聞いた方がいいと思った。</p> <p>もちろん、考え方としては部活動だから、スポーツ・芸術の関連で考えることが、分かりやすいのかもしれないが、それが難しいのであれば今後いろいろ模索していき、そちらの可能性も探りつつ、別の中間支援組織に対してもそういったテーブルを設けることも含めて、検討が必要であると思う。先ほど山野委員がもっと具体的な協議をした方がいいととおっしゃったが、絵だけ書かれても実際に動くとなったら、全く人も金もついてない、動けないおそれがとあると思った。</p>
<p>山野委員</p>	<p>会長のおっしゃるとおり、私も文化連盟、スポーツ協会にこだわる必要性もないと思う。どういふふうにしたら解決していくか、まずその原点から</p>

	<p>考える必要性があると思う。例えばサッカーの場合にはエスパルスのようなクラブチームがある。スポーツ協会は別組織になるが、そういういわゆるプロにご協力願うことも十分考えられる。</p> <p>また、違う組織もひょっとしたらあるかもしれない。例えば、つくば市のように大学である程度のものを作っただいて、受け入れ態勢を作っただけ。そのように、いろんな形が考えられると思うので、スポーツ協会等々にこだわることはなくても、どういう形でできるかということ、もう少し議論していく必要があると思う。</p>
橋本委員	<p>私はPTAの関係なので、色々な団体の方をお願いするしかない。今、協議するところに関しては、令和8年度までに、実証実験も含めて整えるというイメージなのか。</p> <p>前回の協議会でもこの話題が出て、グランドデザインを令和7年度末に出すという話であったが、いざスタートとなったときに、先ほど言ったように絵にかいた餅になってしまうと困る。実証実験をやって、試行錯誤していかないとだめだと思うので、早めにやっていただかないといけない。言い方は悪いが子どもの成長の3年間はあっという間で、バタバタしている間にこのまま大きくなってとなると、子どもの不利益となりかわいそうだなというのが正直ある。できるだけ、しっかり進めてほしいと思う。</p>
村田会長	<p>再確認だが、時限措置としては令和8年4月にスタートということか。</p>
事務局	<p>令和8年4月に一斉スタートというのは無理だと思っている。できる準備ができたものから随時移行していきたいと考えている。</p> <p>基本的には今のところ休日をターゲットにしている。平日まではそれからの議論になる。まずは休日について、青写真としてのグランドデザインをまとめていけたらと思っている。</p>
神尾委員	<p>今後、令和8年4月を目指して現実的なことを考えながら具体的なことを決めていかなければならないと思う。そうしないと、やはり見切り発車になってしまう可能性がある。それは、子ども、保護者に対してすごく不利益な状況が生まれてしまうと思っている。そういう意味で、すごくやるが多くて大変な事業だと認識している。</p> <p>先進的な市町の資料をいただき説明をしていただいたが、組織的なこと、体制的なことは資料を見て何となく理解はできるが、先進的な地域でもきつと困っていることはあると思う。こういう組織で作ってスタートし始めたが、立ち止まってもう一度考えなくてはならない、いわゆる進捗状況の中で、メ</p>

	<p>リット或いはデメリット等があると思う。この組織を作るに当たって、一番肝になるのが、この運営主体をどこが担うのかというところになると思っている。先進地域で運営主体を、市以外の団体をお願いしている市町もあれば、市の担当課を決めてやっているケースもあるので、それぞれのよさや、或いは困っていることは何かというのをもう少し詳しく知りたいと思う。</p> <p>そういう知識を得ながら、富士市の実態にどう合わせていけばいいのかということを考えるべきである。例えば、こういった先進的な地域に視察に行くとか、或いは、そういった方に直接話を聞かるとか、そういう機会もあったらいいと思った。</p>
村田会長	<p>今、神尾委員がおっしゃったように、運営主体を行政サイドにするか、民間サイドにするかというのは、まず大きな考え方の分かれ方と思う。</p> <p>本日のこの議題では、やはり今、神尾委員がおっしゃったように運営主体をどうするかという議論があり、それを行政サイドにするか、民間サイドにするかということを考えるために、もう少し材料がほしいということがある。</p> <p>例えば民間サイドだとしたら、協会や連盟がイメージはしやすいが、そちらの方向も探りつつ、ただそこだけにこだわらずにしっかり議論しながらもう少し広い目で、運営主体、いわゆる民間サイドを探る、交渉していくという方向性を確認した。今日はここまででよろしいか。</p> <p>今日いろいろ御意見や現状も出てきたと思うので、これを第4回でも継続審議としたいと思う。</p>

(3) 指導者等の人材確保について

教育委員会事務局が説明した後、委員の質疑等を行う。

村田会長	<p>先ほどの議題と少し重なるが、組織体制の中の現場、実施主体のところのいわゆる指導者、教える人材についての議論である。</p>
橋本委員	<p>2つほどお願いがある。先ほど神尾委員もおっしゃっていたが、浜松方式というものについてもしっかり調べていただき、提示していただきたいというのが1点。もう1点は、今後の取組の案の中にPTA・保護者等の意向を確認するとあるが、どのように確認するつもりなのかということをお教えいただきたい。もし富士市PTA連絡協議会がやるのであれば、PTA事業で協力できる場所もあると思う。どういうふうに行っていきたいと考えているのかをお教えいただきたい。</p>

<p>事務局</p>	<p>まず浜松方式について、我々もまだ具体的に詳細を掴んでいないので、今後調べて案を示すようにしたい。2点目のPTA・保護者等の意向の確認についてであるが、こちらも現時点では手探り状態が正直なところである。どのようにやればいいのかということをお相談させていただき、一緒に動かさせていただければと思う。</p> <p>少し補足させていただく。1ページ目の2の解決策（案）の（4）（5）に係るかもしれないが、今、民間企業から社会貢献としてお手伝いできないかのような相談が、実際に我々の方にもある。今後どうしていけばいいのか、先ほど実施主体の団体基準というものもあったが、こういった条件であれば、お願いすることができるなど、そういった動きもとっていきたいと考えているので、御承知おき願いたい。</p>
<p>村田会長</p>	<p>イメージとしては、例えばABCの中学校の、A中学校のサッカー部は平日、部活動で活動している。ただ地域移行になった場合は、A中学校のサッカー部、例えば10人としたらそのメンバーが学校という箱の中でやるのではない、場所は学校でもいいが部活というモードではない状況でやるというイメージでよいか。そこに兼職兼業届を出して、いわゆる先生が指導してもそれは妨げるものではない。中には、平日は活動するけれども休日はやらないという話もある。</p> <p>近くの自治体では、いわゆる教職の方々の負担を軽減するために、A中学校とB中学校は休日是一緒になって活動している例がある。すると教員は、いわゆる時間的な負担が2分の1とか3分の1で済む。ほとんど学校で活動する風景は変わらない。ただ大人の関わり方が変わる。必ず自分の学校の生徒に対して自分の学校の先生ではなく、思い切って別の指導者にする。別の指導者というか、学校の雰囲気を引き続き引き継ぎつつ、地域の指導者や場所について、予想される懸念事項等あればお願いしたい。</p>
<p>山野委員</p>	<p>組織としては主体が地域で活動するが、場所は学校で行う。学校の体育館で平日は月曜日から金曜日までやっていて、土曜日、日曜日は同じ体育館で活動する。ただ指導者が変わる。</p> <p>事務局の説明の6番で指導者として、PTA・保護者等が考えられることについて、見守りで足りるような部活動というのも当然あり、子どもたちが主体的にできる部活動というのはある。ただ、技術を上に持っていくのであれば当然指導者が必要になってくる。我々が中学生のときの部活動では、いわゆる先輩たちが来て教えてくれて、顧問もほとんど来てなかった。それでも県</p>

	<p>でもトップレベルの競技ができたという経験がある。そういう部分の中で、保護者・PTA・地域の人たちが見守る中で、例えば、卓球なら卓球の指導者がそこにたまに来て教えてくれるということであれば、子どもたちは移動する必要が全くない。</p> <p>学校でそのまま場所を移さず、指導者が学校に来るということについて、今まで議論がなかったが、考え方としては可能であるのか。教えてほしい。</p>
事務局	<p>今、委員がおっしゃったのはおそらく地域連携という類型となると思う。可能か可能でないかということであれば可能である。学校の先生は、休日は張り付かなくて済む。</p> <p>地域連携は、部活ではあるが、先生の負担を減らすという意味では、地域移行ができなかった種目はそれも考えなさいと国が示している。そういうことも視野に入れながら動くことはあり得ると思う。</p>
山野委員	<p>いわゆる教員の負担をなくすということで問題解決の糸口にはなるのか。子どもたちはそのまま継続してスポーツや文化活動をすることは変わらない。他に移動しなくてもいい。教える人、見守る人が変わるだけの話となる。すごく自然で無理がないやり方だと思っている。</p> <p>スポーツ協会等の話合いの中でも、そのような話が出ないわけではない。意見として述べさせていただいた。</p>
事務局	<p>今の話であれば、教員の負担を減らすこともでき、子どもたちは移動もしなくて済む。ただ、部活動がその学校にあるということが今の前提のお話になると思う。しかし、やりたい部活動がないという子どもたちにとってみたら、結局やれないということは当然あるので、そこについての議論は必要であると思う。</p>
山野委員	<p>別枠として、地域クラブが今でもある。例えば部活動で剣道をやっている子どもが夜まちづくりセンターで空手の練習に来るなどは今でもあり、当然可能だと思う。</p> <p>それが部活動という名称になるかどうか分からないが、違う運動、スポーツができるという、自分の欲求を満たせるということについてはクリアできると思う。それほど難しい話ではない。</p>
橋本委員	<p>それと関連して、外部指導員の条件を下げただけであればと思う。今、就業時間等の様々な縛りがあり、保護者ができないというのが多々あると思う。そこも検討していただければと思う。</p>

村田会長	見守りという言葉が出ている。見守りという定義はあるか。いわゆる指導者の指導と見守りの違いは。
事務局	特に定義があるわけではないが、純粋にその言葉通りに受け取っていただければと思う。子どもたちの活動を安全に配慮しながら見守るっていう形で捉えていただきたい。
村田会長	<p>資料4の3の指導者の記載の中に、見守りなどまで範囲を広げた内容にすべきか検討したいとある。指導者という項目だが、一般的には見守りは入れてもいいかなと思った。ただ、その責任の問題について考える必要がある。</p> <p>今後、地域移行となった場合に、部活動は教育課程外ではあるが、学校教育の管理下であるこの地域移行の話ではそこから外れるとなったときに、先ほど山野委員がおっしゃった他の子どもたちの自治というのはすごく大事だと思っている。子どもたちの自治は大事だが、学校の管理下であるならば、やはり先生がいないと何かあったときの責任というところにねじれ現象があると思う。責任問題という言葉は悪いが、その責任を学校教員に委ねるかどうか。いわゆる管理外であれば、学校教員が請け負う必要はないと思う。請け負う必要がないとはいえ、色々あると思うが。</p> <p>見守りを入れて何かネックになることであるか。もしこの指導者の中に見守りを入れることで、何でもありになるとか、基準が緩むということはあるのか。私は支える人、支えるタイプを増やすという意味で、がっちりした指導は大事だが、そういった見守りのような考え方というのも広げていくというのは1つのあり方かなというふうに理念的には思った。また審議をしていきたいと思う。</p> <p>今日皆さんと確認したが、今後また疑問点や確認したい点が出てくるかもしれない。今日の組織体制、指導者確保等の各論についてはこれからもまたテーブルも設けながら、継続審議として詰めていければと思っている。</p> <p>引き続き御検討をよろしくお願ひしたい。</p>

3 その他（連絡事項）

- ・次回、第4回の協議会を、年明けに行う。日程を調整し、開催させていただく。
- ・今回の議事録については、事務局で作成し、後日送付する。
- ・今後、発行していく「部活動つうしん」については、都度、委員へ送付する。

閉 会